# みだれ髪　抄

与謝野晶子

夜の帳(ちやう)にささめき尽きし星の今を下界(げかい)の人の鬢のほつれよ

髪(かみ)五尺ときなば水にやはらかき少女(をとめ)ごころは秘めて放たじ

その子二十櫛（はたち）にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな

清水（きよみづ）へ祇園（ぎをん）をよぎる桜月夜（さくらづきよ）こよひ逢ふ人みなうつくしき

経（きやう）はにがし春のゆふべを奥の院の二十五菩薩歌うけたまへ

やは肌のあつき血汐にふれも見でさびしからずや道を説く君

春雨にぬれて君こし草の門(かど)よおもはれ顔の海棠の夕

ほととぎす嵯峨へは一里京へ三里水の清瀧(きよたき)夜の明けやすき

なにとなく君に待たるるここちして出でし花野の夕月夜かな

くろ髪の千すぢの髪のみだれ髪かつおもひみだれおもひみだるる

# あとがき

この本は、一枚の本の「デジタル製本」の見本です。

与謝野晶子『みだれ髪』から、よく知られた十首を選び、歌集の順に並べました。本文とふりがなは、青空文庫によります（底本：『みだれ髪』新潮文庫／入力：田中哲郎／校正：富田倫生）。

『みだれ髪 抄』

2026年11月15日　第一刷発行

著者　与謝野晶子

組版：うっかり / デジタル製本：一枚の本

一枚の本「デジタル製本」の見本です。

作品は、著作権の切れた古典です。